

11 住み続けられる  
まちづくりを



地域に世界に貢献する人育て

令和7年(2025年)度

# みずぬき

西宮市立浜脇小学校  
西宮市浜脇町5-48  
Tel 0798-33-0668  
Fax 0798-33-6928  
令和7年(2025年)12月25日  
WEB版特別号

※明治の頃、町の人は本校のことを「水抜きの学校」と呼んでいました。浜脇町の旧地名に由来するものです

学校教育目標

具体目標

「やさしさ」「つよさ」「かしこさ」を育む 【仲のよい子 たくましい子 考える子】

## 浜脇小学校の歴史とこれから

12月は本校が誕生した月です。西宮市でも長い歴史のある本校の始まりを紹介します。本校の創立記念日は3月1日です。明治10年3月1日の新校舎完成を記念し、創立を祝う日としたのです。歴史を重ねる中で、平成11年、大正時代にまとめられた学校の沿革史や郷土関係資料から、明治5年に本校が誕生したことがわかりました。その後、創立記念日(創立を祝う日)は、これまでどおり3月1日を継承していくこととなり、現在に至ります。

### 【浜脇小学校誕生の頃の浜脇地域ってこんな感じだったのかな?】

明治5年(1872年)に学制が公布されました。全国それぞれに大学校・中学校・小学校を設置することを計画し、身分・性別を分けへだてすることなく学ぶことを目的としていました。明治5年ごろに発足した学校の多くは、その地域の方の寄付で学校が建てられ、開校していました。松本市の旧開智学校などがよい例です。そして、私たちの浜脇の地にも、石在町法安寺内に本校の始まりとなる町立学校が発足しました。当時の浜脇の方がこの地で育つ子供たちにより教育を施したい。そうした熱意をもっていたことは想像に難くありません。余談ですが、西宮の学校は私学も含め、西宮の子供を西宮で育て、地域に貢献する人間に育てたいとする理念をもって作られた学校が多くあります。それらを支えたのが清酒業を中心とした地域の確かな経済基盤でした。

### 【校内のある歴史を感じさせる場所】

明治33年(122年前)に浜脇町に新校舎が建てられた時の門柱は、運動場の北側に当時のまま残されています。ほかにも、機銃掃射を受けた学校の鉄柵など、ひまわり学級前のメモリアルスペースには、本校の歴史がわかる資料が展示されています。校長室の前には、100年ほど前に建石小学校でチャイムやプールの合図に使われていたであろう鐘を置いています。子供たちが時々、鳴らしています。

50年ほど前に旧校舎の入口にぶら下げられていた鐘も、用務員さんが小さな鐘楼をこさえてくださり、校長室前に置いています。チャイムは放送施設から自働で鳴るようになっていた時代ですが、災害や停電に備えて設置していたという話を地域の方に聞かせていただきました。

これらの鐘は、神戸の船舶用品も扱っているお店で購入していたようです。澄んだ鐘の音は、とても心地よいものです。また、その鐘の音を聴いていた昔の子供たちの暮らしの様子を、どんなことを楽しんでいたのだろう、どんな笑顔をしていたのだろうと想像してみることはとても楽しいことです。

### 【地域みんなに愛された旧校舎】

最後に、旧校舎を取り上げたいと思います。浜脇地域は昭和9年9月に室戸台風で大きな被害を受けました。その時の復興として、浜脇小の校舎は鉄筋コンクリートの3階建ての本館と西館、講堂が再建されました。防災の拠点として、西宮で一番大きな学校として、建築されました。その後、鉄筋の校舎が大きな役割を果たします。昭和20年8月5日から6日未明にかけての西宮空襲で、浜脇地域は焦土と化しましたが、浜脇小学校の校舎は焼け落ちることなく避難拠点となりました。昭和13年に20歳で浜脇小学校に赴任した有田国夫という先生がいました。浜脇小学校の近くに居を構え、昭和23年まで勤務されました。有田先生は浜脇小学校百周年記念誌に次のように寄稿されています。

「大音響とともに地面がゆれ動き、地震と火事が同時におきた感じであった。近隣の人々と防火に走りまわったが、あっという間に火の海になった。(中略)翌朝、浜脇小学校もきっと焼けたであろうと、半ばあきらめながら駆けつけた。思いもよらぬ健在であった。(中略)ススと迷彩にまっ黒によごれながらも、焼土のくすぶりの中に厳然として建っている、鉄筋三階建の本館の姿を仰ぎみて、感慨無量であった。いま、焼け出された者にとって、なによりも大きな心のささえであった。」

ちなみに私の小学校の卒業証書に「有田国夫」という校長先生のお名前があります。校長室で怒られる常連だった私に、一番奥に座って、厳しい目を注がれていた有田校長先生の初任の学校に勤務する機会、そのことを知る機会を得ていることに、「気をつけ！」せなあかんといつも思うのです。

#### 【空襲を語り継ぐ】

昭和20年8月6日、広島に原子爆弾が投下されたその朝、西宮市も前夜からの激しい空襲で焦土と化してしまいました。その爆弾の雨をくぐり抜け、生き延びた人たちがいたからこそ、今の私たちがいます。8月5日夜から6日未明に、今の南門付近の自宅で被災した、卒業生の田間貞夫さんとの出会いがありました。その空襲の様子や田間さんの体験を動画にまとめました。その後、保護者の杉本さんを中心にブックスさんの協力を得て、令和7年度の始めに絵本にすることができました。この絵本は新聞に取り上げて頂きました。戦後80年すぎた今、当時の様子を伝える、そして平和の大切さを訴える貴重な資料として、後世に引き継いでいきたいと思えます。

#### 【新しい歴史を作る場所】

令和5年・7年には、県民まちなみ緑化事業で校内に多くの木を植樹しました。その中に1本の桜の木があります。この木をこれからの50年を見守る浜脇の桜の木として子供たちにも紹介し、大事にしています。今の子供たちが大きくなって浜脇小を訪れた時に、自分の歴史と浜脇の歴史を重ね合わせてみるように願いを込めて桜の木を大事にしたいと思えます。

この小学校が長く長く地域から愛され、そしてこれからも地域の大事な大事なランドマークであることはこれからも変わらないと感じます。その歴史の一端に携われていることを日々、誇りに感じています。これまでも、そしてこれからも、浜脇小が子供たちにとって学びの故郷になるよう取り組みたいと思えます。

(令和4年から令和6年の巻頭言をまとめました：有元 宏次)